

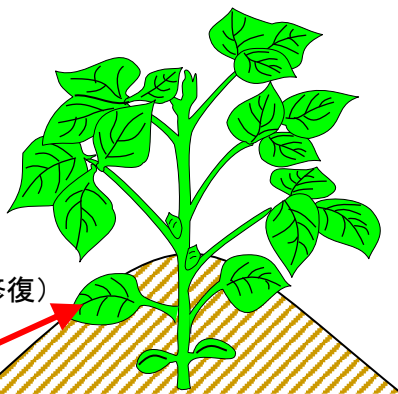


現在の生育状況は、播種時期の断続的な降雨により播種日のバラツキが大きく、生育差も大きい状況です。本年は6月10日頃に梅雨入りし、7月18日頃に梅雨明け(平年値7月25日)の発表がありました。7月に入り現在まで降雨の日がほとんどない状況です。培土作業や畝間除草剤散布作業、開花期を迎えた圃場は畝間灌水など、遅れずに実施しましょう。連日、暑い日が続いてますので、熱中症等には十分に気をつけて作業を行いましょう。

里のほほえみ、高収量・高品質へのポイント

①培土・除草作業、排水対策のポイント

- 2回目の中耕培土は、本葉5～6葉期に、初生葉が隠れる程度に実施する。(植物体が大きくなりすぎている場合は、無理な培土は行わない)
- 雑草の発生や種類に応じて除草剤を散布する。
- 額縁排水溝の点検・確認を実施する。(溝の詰まりや崩れがあったら適宜修復)



②収量UPのポイント

①畝間灌水：水分ストレスの軽減

- 6～7月中も降雨の間隔や降水量によっては干ばつ傾向になることがあります。葉の裏返る前に畝間灌水(午前中から灌水して昼過ぎ～夕方に落水)をしましょう。
- 1回の灌水でどっぷり灌水より、こまめに回数を重ねましょう。(8月以降は特に)

【根粒菌】

その他《大豆の状態を知るワンポイント診断》

- ① 適当な大豆を根から抜き取り、根粒を採取する。
- ② 根粒をカッターで2つに切り分け、表面を観察する。
- ③ 表面が赤い色であれば正常(根粒菌の活性が高い状態)。
- ④ 表面が灰色や緑色であれば何らかの影響で活性が低下している。



②ウコンノメイガ(防除：7月下旬～8月上旬)

- 葉の巻き始める若齢幼虫期(発生初期)の防除が効果が高い、葉色が濃く生育旺盛な圃場や山沿いの圃場では発生が多くなる。発生が多いときは、全葉が被害を受け、食害を受けた部分は褐変して枯死する。

ウコンノメイガ防除剤

- ダントツH粉剤 4kg/10a
使用回数：2回(収穫7日前まで)
- プレバソンF5 16～32倍 0.8ℓ/10a(無人ヘリ等散布)
使用回数：2回(収穫7日前まで)

③葉焼け病(防除：7月下旬～)

- 主に葉に発生し、初発は淡緑～淡褐色のきわめて小さな斑点が発現する。時間が経過するとともに広がり1～2mmの大きさの褐色～黒褐色となり、発病が激しいと葉全体が淡黄色となり枯死して落葉する。

葉焼け病剤

- Zボルドー 500倍 100～300ℓ/10a
- フェスティバルC水和剤 600倍 100～300ℓ/10a
使用回数：3回(収穫7日前まで)

【防除体系】

生育ステージ	7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
防除	生育盛期			開花期			子実肥大期			成熟期		
基幹防除	1回目 殺虫剤(ウコンノメイガ)			2回目 殺菌殺虫剤(紫斑病+カメムシ類・アブラムシ類)			3回目 殺虫剤(カメムシ類・マメシキガ)					
	葉焼け病											